

2学期の終業式式辞

平成28年12月22日(木)

皆さんおはようございます。さあ、2学期の自分を振り返ってみましょう。体育祭でがんばった自分、進路について考えてそれに向けてがんばった自分、授業の中で自分がよく取り組めた姿、部活動で一生懸命やっている姿、補習や土曜学習会でしっかり学習に取り組めた自分、ボランティアやインターンシップで頑張った自分、皆さんそれがいろいろな姿を思い浮べることができたのではないかでしょうか。学校のなかでの活動でいろいろな体験をしつつ、成長できたのではないかと思います。

この後、夏休みに2年生が取り組んだ手塚治虫記念館でのインターンシップの報告会があります。また、明日の宝塚ハーフマラソン大会には、陸上部や2年生のボランティアが大勢スタッフとして参加します。県宝生が地域で活動し、貢献してくれることに誇りを感じます。すばらしいことです。

さて、私は、ある小学校の5年生のクラスで、お話しする機会がありました。読み物を読んでみんなで色々な事を考えたり発表したりします。皆さんも小中学校の時に「道徳」の授業でそのような事があったと思います。友達との関係がテーマのお話で、それを基に、「仲間」についてみんなで考える授業をしてきました。

その中で、「クラスで良くないことがあったときに、友達にやめた方がいいよと言うことができない、自分には勇気が無いからだめだって言えない」「本当はこうしたほうがいいよって言いたいのに、自分には本当の気持ちをいう勇気が無い」というように、「勇気が無い」という言葉が多く出てきました。私はそこで、「勇気ってどこから出てくるのでしょうか？」と聞き返しました。「勇気ってどんな時に出てくるのでしょうか」「勇気ってどんなものなどでしょうか？」と聞いて話し合いを進めました。

私は県宝でも色々な機会に皆さんのお話して、皆さんから感想や思いを書いてもらうことがありました。1年生はオリ合宿で、2年生は昨年各クラスで、3年生は一部の生徒でしたが、そのような機会がありました。「自分がもう少しつけたい力は何ですか?」とか「これから自分がどう変わりたいですか?」という質問に応えてもらった事がありましたね。その中に、「話し合いなどで、自分の気持ちも大切にしようとは思いますが、周りの空気を気にしてしまい、自分が最初にこうしようと言い出したり、自分から動いたりができないので、勇気を持って行動できるようになりたい」

「したいことに挑戦する勇気を持ちたい、いつもやりたいと思ったことに勇気が出ずにはやめてしまう」
そのような事が書かれていました。「勇気が持てない」ということが案外多く書かれていました。

電車で席を替わるにもなかなか勇気が出ずに替われなかつたという経験は誰にもあるかもしれません。このように自分で自分を動かすのに勇気が必要なんですね。

その小学校で、話し合いを続いているうちにある男の子が、「勇気って、何かに正面から向きあうことだと思います」って言ったんです。私はへーと感心してしまいました。「勇気が無いんじやなくて、ただ見ないようにしてる、そこから逃げていいだけなんじやないか」そういうことも出てきました。

高校生の皆さんには、「勇気」って何だと思いますか？どんな時にどこから沸いて出てくるのでしょうか？ 考えてみてください。

私は、皆さんやこどもたちと話をしながら、自分の中にある壁を乗り越えて、脱皮して成長して欲しいと願わずにはいられませんでした。

本当に大切なこと・人、自分を含めて、本当に大事にしたい人・ことを、本気で思うところから生まれてくるのではないかと私は思っています。さあ、皆さんそれぞれ自分にとって大切だと思うことを、じっくり考えて、考え続けて、本気で大事にして欲しいと思います。この事を1年の締めくくり、そして来年に向けての皆さんへのメッセージとして、2学期終業式の式辞とします。